

近畿大学医学部附属病院の移転に伴う必要病床数への影響について

参考資料

1 現近畿大学(本院)の占める必要病床数

単位:病床数

	既存病床数(A)	2013年度 必要病床数(B)	(B)/(A)
南河内	6,682	6,452	0.97
現本院	933	900	0.97

南河内既存病床数:平成25年4月1日現在

近大病院病床数:平成25年度DPC対象病床数



2 現近畿大学(本院)医療機能区分ごとの必要病床数(2013年度)

単位:病床数

	高度急性期(C)	急性期(D)	回復期(E)	慢性期(F)	合計(G)
(I)南河内	741	2,089	1,468	2,154	6,452
(II)現本院 <sup>※1</sup>	273	334	210	83	900

※1 近大が提出したDPCレセプトデータと現本院の必要病床数(2013年度)から推計



3 現近畿大学(本院)医療機能区分ごとの必要病床数(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期(H)	急性期(I)	回復期(J)	慢性期(K)	合計(L)
(I')南河内	814	2,515	1,875	1,902	7,106
(I')/(I)	1.10	1.20	1.28	0.88	
(II')現本院=(II)*(I')/(I)	300	403	269	73	1,045

合算

4 現近大病院(本院)と(分院)の医療機能区分ごとの必要病床数 合計(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
(V)本院+分院=(II')+(IV')	421	530	357	98	1,406

移転予定病床数に基づき配分  
【新本院:新分院=980:300】

5 移転後の近大病院(分院)医療機能区分ごとの必要病床数(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期(M)	急性期(N)	回復期(O)	慢性期(P)	合計(Q)
(II'')新分院=(V)*300/1280	99	124	84	23	330

6 移転後の南河内の必要病床数(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期(R)	急性期(S)	回復期(T)	慢性期(U)	合計(V)
(I'')南河内=(I')-(II')+(II'')	613	2,236	1,690	1,852	6,391

合算

7 移転後の南河内と堺市の必要病床数合計(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期(R)	急性期(S)	回復期(T)	慢性期(U)	合計(V)
(VI)合計=(I'')+(III'')	1,805	5,643	4,446	5,104	16,998

※計算過程においては、小数点以下の数字についても反映しています。

1 現近畿大学(分院)の占める必要病床数

単位:病床数

	既存病床数(a)	2013年度 必要病床数(b)	(b)/(a)
堺市	9,414	9,296	0.99
現分院	310	306	0.99

堺市既存病床数:平成25年4月1日現在

近大病院病床数:平成25年度DPC対象病床数



2 現近畿大学(分院)医療機能区分ごとの必要病床数(2013年度)

単位:病床数

	高度急性期(c)	急性期(d)	回復期(e)	慢性期(f)	合計(g)
(III)堺市	861	2,529	1,959	3,947	9,296
(IV)現分院 <sup>※2</sup>	105	103	67	31	306

※2 近大が提出したDPCレセプトデータと現分院の必要病床数(2013年度)から推計



3 現近畿大学(分院)医療機能区分ごとの必要病床数(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期(h)	急性期(i)	回復期(j)	慢性期(k)	合計(l)
(III')堺市	991	3,128	2,571	3,202	9,892
(III')/(III)	1.15	1.24	1.31	0.81	
(IV')現分院=(IV)*(III')/(III)	121	127	88	25	361

南河内医療圏と堺市医療圏の必要病床数の合計(L)+(l)=16,998

5 移転後の近大病院(本院)医療機能区分ごとの必要病床数(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期(m)	急性期(n)	回復期(o)	慢性期(p)	合計(q)
(IV'')新本院=(V)*980/1280	322	406	273	75	1,076

6 移転後の堺市の必要病床数(2025年度)

単位:病床数

	高度急性期(r)	急性期(s)	回復期(t)	慢性期(u)	合計(v)
(III'')堺市=(III')-(IV')+(IV'')	1,192	3,407	2,756	3,252	10,607